

## 令和4年度第1回総合教育会議会議録

令和4年第1回総合教育会議が、令和4年8月17日、午後3時00分、塩尻総合文化センター大会議室に招集された。

### 会 議 日 程

#### 1 開 会

#### 2 市長あいさつ

#### 3 教育長あいさつ

#### 4 議 事

- 議事第1号 教育の条件整備等について  
(1) 小口市政20年間の教育について

#### 5 その他

#### 6 閉 会

#### ○ 出席者

市 長	小 口 利 幸		
教育長	赤 羽 高 志	教育長職務代理者	碓 井 邦 雄
委 員	小 林 夕 香	委 員	徳 武 あ ゆ 子

#### ○ 欠席者

なし

#### ○ 説明のため出席した者

こども教育部長	太 田 文 和	生涯学習部長	胡 桃 慶 三
こども教育部次長 (教育総務課長)	熊 井 美 恵 子	生涯学習部次長(社会教 育スポーツ課長)	田 下 高 秋
こども課長	竹 中 康 成	平出博物館長	小 松 学
家庭支援課長	植 野 敦 司	交流支援センター長(図 書館長)	上 條 史 生
主任学校教育指導員	村 上 啓	文化財課長	中 村 琴 江

#### ○ 事務局出席者

教育企画係長 佐 藤 智 樹

## 1 開 会

**太田こども教育部長** 定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第1回総合教育会議を開会いたします。本日の進行を務めさせていただきます、こども教育部長の太田です。よろしくお願いいたします。

## 2 市長挨拶

**太田こども教育部長** それでは初めに、小口市長から御挨拶をお願いいたします。

**小口市長** 令和4年度の第1回です。文科省なのか、いわゆる教育委員会と行政との狭間ができないようにしようと始まっています。いい意味、悪い意味も含めて塩尻市住民6万人規模としては、あまり今まで私も弊害を感じたことはなかったし、支障ないと思いながら、ただ広い意味で意見交換することはとてもいいことだと常々思っておりました。正直、私のように期数を重ねると、副市長が1年不在になった場合と比べまして、教育長が1年いないともものすごく私は仕事をやる自信がないというか大変だ、変な言い方ですが思います。

行政と教育の独立化という意味ではなく、あらゆる業務が連携しているので、トータルの判断は、お金も、今言った子どもの50年後まで、分からなくとも分かったような顔をして対策を打たないといけないわけです。そういう行政をとてもしゃないが両方を担うことは物理的に不可能だし、能力的にも不可能であったと思います。そんな面からは、若い教育長になる前にも、何人かの教育長とそのような職務分担をしてこれたがゆえに、滞りなく教育が進んでくれたということです。大変感謝申し上げ、冒頭の挨拶にさせていただきます。

**太田こども教育部長** ありがとうございます。

## 3 教育長挨拶

**太田こども教育部長** 続きまして、教育長からお願いします。

**赤羽教育長** 私からも一言お願いいたします。小口市長は、本日を含めまして、数えましたら残り45日間をもちまして御退任されます。5期20年間という長きにわたりまして、本市のリーダーとして最後の最後まで御活躍されております。コロナ禍の前の話ですが、小口市長はよく学校に顔を出していただいて、子どもたちと一緒に給食を食べたり、卒業式や入学式のときに華を添えていただきました。一例でありますけれども紹介させていただきます。

猛暑対策のことであります。いち早く、まず学校の保健室にエアコンを入れますと、吉田小学校のときに市長がお話しされました。そして保育園、児童館からスタートして、全学校の普通教室にエアコンが導入されたわけです。他市と比べますと塩尻市は先駆けてやっていただきました。他市の教員からも、なぜそんなに塩尻市は速いんだというような、そんな声も掛けていただきました。

小口市長は、いつもにこやかなのですけれども、さらに子どもたちがいる前になると一層にこやかで、その姿をいつも私は横から拝見していました。本日の協議内容は、小口市長の20年間の教育についてということで、この後、皆さんと振り返るとともに、今後の塩尻市の教育に寄せる願いや要望も含めまして、ぜひ市長と語り合っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

**太田こども教育部長** ありがとうございます。

## 4 議 事

### ○議事第 1 号 教育の条件整備等について

#### (1) 小口市政 20 年間の教育について

**太田こども教育部長** それでは、続きまして議事に入ります。

議事第 1 号、教育の条件整備等についてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。

**熊井こども教育部次長（教育総務課長）** 本日の議事第 1 号、教育の条件整備等につきましては、趣旨といたしまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 4 第 1 項第 1 号の規定に基づき、教育を行うための諸条件の整備、その他市の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るための重点的に講ずべき施策について、協議いただくものでございます。

本日の協議内容は、小口市長の 20 年間の教育についてといたしました。詳細につきましては、生涯学習部、こども教育部、各部長から御説明いたします。

**胡桃生涯学習部長** それでは、小口市長 5 期 20 年にわたる生涯学習部に関する主な事業について御説明申し上げます。当部が所管します分野は、生涯学習、スポーツ、公民館、文化財、図書館など多岐にわたりますが、順を追って御説明申し上げます。資料につきましてはお配りしております生涯学習部 20 年間の主要事業を参考にさせていただければと思います。

初めに、生涯学習に関わる交流施設についてでございます。小口市長就任当時より、現在の市民交流センターえんぱーくの建設に向け、市民、また関係者などにより、どんな施設としたいか、どんな運営がされるべきかなど、開館までに延べ 200 回以上、様々な分野で活発に議論が交わされ、晴れて平成 22 年に「知恵の交流を通じた人づくりの場」として開館いたしました。

現在も、複合施設の見本として、県内外もちろん国外からも視察を受けております。また、交流施設の 2 眼レフとして令和元年に北部の拠点施設として、目指す姿を「こどもがつなぐあたらしいふるさと」としたえんてらすを開館し、情報発信、交流施設整備が整い、両施設ともに子ども連れや学生をはじめ、多くの市民が集う施設となっております。今後も急速に進んでいるデジタル化を見据えながら、進化する施設として、市内外問わず多くの方に愛される施設となるよう取組を進めてまいります。

スポーツ関係では、市民 1 人 1 スポーツを目標に、普及促進事業と平行し、施設整備を年次的に行ってまいりました。平成 17 年には中央スポーツ公園に人工芝テニスコート整備を実施し、その後、平成 19 年に市立体育館の耐震改修、平成 25 年に中央スポーツ公園サッカー場の人工芝化など、環境整備に努めてまいりました。

中でも、市政において 10 年来の懸案でありました総合体育館につきましては、昨年の 4 月にユメックスアリーナとして開館することができ、コロナ禍ではありますが、市民を中心に県内外から多くの方に御活用いただき、アスリートの意欲、競技力向上に大いに寄与しているものと考えております。また、平成 28 年には、市民の善意から始まりましたスポーツ夢基金が創立され、全国大会レベルのスポーツ大会へ出場する青少年に激励金をお渡ししております。次代を担う青少年のスポーツ競技などの活躍を応援し、全国または国際的な規模のスポーツ競技の大会において、優秀な成績を修めることができる人材の育成を図っているものでございます。

公民館事業としましては、各地区で市民を主体とした特色ある公民館事業が展開されてお

り、その成果として平成 29 年には吉田公民館が、令和元年には広丘公民館が文部科学省の優良公民館として表彰されております。

続いて、文化財関係でございます。平成 17 年に贛川地籍の深澤家住宅が国重要文化財に指定され、また令和 2 年には奈良井にあります旧中村家住宅も同じく国重要文化財に指定されております。現在、市内には、国内でも有数の 7 件の重要文化財民家が存在しております。中でも小野家、堀内家住宅は、平成 25 年、31 年度、それぞれ大規模半解体修理が終了しており、今後も地域の宝として保存と活用の両立を目指してまいります。

一方、平成 18 年には木曾平沢が重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成 17 年度、合併以前に選定されておりました奈良井を合わせ、現在 2 地区の重伝建地区がございます。小口市長は平成 15 年の就任依頼、長く全国伝統的建造物群保存地区協議会副会長を務めてまいりました。

余談ですが、奈良井の宿場町は、その町並みについて全国でも特 A 級の保存状態であると文化庁からもお墨付きを頂戴しております。平成 23 年 4 月から放映された NHK 朝の連続テレビドラマ「おひさま」のロケ地として使用された際は、小口市長はじめ多くの職員がエキストラで参加したことは貴重な経験であり、懐かしく思い出されます。放映によって、日本全国に広く奈良井宿の魅力を発信できたよい機会だったと考えております。

平出遺跡につきましては、平成 19 年、令和元年度に本市において縄文シティサミットが開催され、また平成 14 年に着手しました、平出遺跡公園整備事業が平成 24 年度に完了し、その後、活用としてひらいで遺跡まつり、ガイダンス棟での火おこし、勾玉づくり体験を開催するなどし、集客に努めております。

図書館としまして、市立図書館を中心に蔵書の拡充、レファレンスサービスの質の向上など、図書館が担うべき役割を意識した取組をしてまいりました。本図書館は、全国的にも範とする施設として広く認知されており、中でも平成 24 年に開講しました信州しおじり本の寺子屋は、著者、評論家、記者、出版社など、本に思いを込めて世の中に送り出している方々を招き、本の魅力を発信し、出版文化の未来へ寄与しようという先駆的な取組でございます。昨年、10 周年記念講演として計画しておりました小泉今日子氏をお招きする企画は、コロナ禍で 1 年遅れとなりましたが、去る 7 月 24 日、レザンホールへ 1,000 人近い方に御来場いただき、無事開催できました。

また、令和元年度には塩尻市、岐阜市、神奈川県大和市の 3 市の図書館で、「図書館の連携・協力に関する同盟」が締結され、去る 5 月 28 日には 3 市長による鼎談も行われ、将来にわたりよりよい情報提供拠点として全国規模で連携を図りながら、さらなるサービス向上を目指してまいります。

様々な分野を担う業務ではありますが、市長が提唱してまいりました「子育てしたくなるまち日本一」を今後も目標とし、20 年積み重ねてきたものがより進化し、将来が希望ある未来となるよう、職員一同、職務に邁進してまいります。ざっぱくではありますが、私からは以上です。

**太田子ども教育部長** 続きまして、子ども教育部に関する 20 年間の主要事業につきまして、私から御説明いたします。お手元の子ども教育部 20 年間の主要事業を御覧ください。

まず、保育園施設につきましては、平成 14 年度から平成 16 年度にかけて旧保育園を統合しながら、新たに塩尻東保育園と宗賀中央保育園を開園してまいりました。

平成 17 年度からは、保育、子育て関係と義務教育関係を連続して支援することも教育部を新たに組織するとともに、平成 18 年度からは、元気っ子応援事業をスタートさせ、ゼロ歳から 18 歳を一体的に支援してきており、現在は、18 歳以降の支援についても取組を進めているところでございます。

また、平成 22 年度には塩嶺体験学習の家を開館し、翌年度にはこども未来塾等運営事業をスタートさせ、子どもたちの体験的な活動や学習の場となっております。特に、こども未来塾リーダー研修については、市長自ら、小中学生と懇談いただくなど、子どもたちにとっても貴重な体験となっております。

学校教育における課題の一つであります給食費の公会計化につきましては、市長のトップダウンにより検討を進め、平成 25 年度からスタートしております。当時、長野県内では先駆けとなる取組となっており、学校職員や保護者からの評価も高く、教職員の負担軽減と子どもたちと向き合う時間の確保につながっております。

平成 26 年度には、各学校の特色ある教育活動を支援する交付金制度を創設するとともに、平成 27 年度には塩尻市教育振興基本計画を策定し、一人一人の育ちに丁寧に向き合う教育を基本理念に取組を進め、平成 28 年度からは、市内全小中学校にコミュニティ・スクールを導入してまいりました。

また、少子化が進む中、学校規模の適正化に向けて、桔梗小学校や塩尻西小学校等に関する通学区の見直しへの取組を進めましたが、指定校を選択できる調整区域の指定制度を令和 4 年度から導入し、対応することとなりました。

近年の夏の猛暑により、子どもたちの命の危険が叫ばれる中、平成 30 年度から令和元年度にかけて、保育園、児童館、小中学校にエアコン設備を導入し、子どもたちの安心・安全な生活の確保に努めてまいりました。エアコン設備の導入については、保育園や学校の先生、保護者からも高い評価を得ております。

最近では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和 2 年度において、全国一斉の小中学校の臨時休校や夏休みの短縮、教育活動の制限、マスクの着用など、子どもたちに大きな負担を強いることになっており、今後の成長への影響が心配されるところでございます。

そのような中、デジタル社会への対応が求められ、学校においては G I G A スクール構想の実現に向けて、学校内の情報通信ネットワークの整備と児童生徒 1 人 1 台の端末整備が一気に進められており、新たな学びへの対応が重要となっております。

また、保育園においても I C T 環境整備が進められており、保育士の業務負担軽減となる保育業務支援システムを導入し、働き方改革に努めているところでございます。

社会的にも大きな課題となっております、ひとり親家庭への支援や子どもの貧困対策、ヤングケアラー支援など、相談窓口のワンストップ化と関係部署との連携体制構築を図るため、令和 3 年度から家庭支援課に業務を集約し、相談支援体制の充実を図ってまいりました。

令和 4 年度は、将来の地域医療を支える人材育成を目的とした医学生奨学資金貸与制度の創設や、少子化が進む檜川地区に義務教育学校檜川小中学校を開校するなど、本市の抱える課題に対し、取組を着実に進めてまいりました。

小口市長の一番の思いである、子どもたちの笑顔を大切に、これまで、「子育てしたくなるまち日本一」や教育再生に関係する事業について、大きな予算づけがされ、様々な取組が進められてきました。これまで積み上げられてきたものを継続、発展させながら、教育委員会

が一丸となって、「子育てしたくなるまち日本一」を目指して、様々な課題に対応してまいります。

また、私自身、市長が掲げる重要施策に関わる部署に長く勤務させていただき、多くの経験や体験をさせていただきましたこと、改めて感謝申し上げます。私からは以上になります。

以上、事務局から説明を申し上げます。市長、また教育委員の皆様からの御意見等を伺いたいと思います。皆様、小口市政 20 年間の教育につきまして意見交換をお願いいたします。

**碓井教育長職務代理者** 小口市長さんには長年にわたって教育への御理解、特に私が携わってきたのは学校教育ですので、その分野への御理解、また御指導、御支援をいただき、本当にありがとうございました。

私が今まで携わってきた学校教育の関係で、私が感じていることを少し考えてまいりましたので、そのことを申し上げたいと思います。失礼な部分もあるかもしれませんが、お許しいただければと思います。

塩尻市は小口市長さんの時代、本日の資料あるいは事務局からも御説明をいただきましたけれども、元気っ子応援事業とか小学校英語とかコミュニティ・スクールなど、先進的かどうか、先駆的かどうか、そういう多くの内容に取り組んでいただきました。学校現場は、先例があまりない新しい内容に取り組むわけですから、大変と言えば大変でした。正直申し上げますと、とても大変でしたが、私は新しいことを拓いていく点にとってもやりがいがあったと思っております。

多くの先生方は、塩尻市の教育の特色は先駆的で、例えば「ICTだよね」とか、「小学校英語が進んでいるね」とか、「コミュニティ・スクールだよね」などと思って、各地から塩尻市へ赴任してきているわけであります。ですから、多少苦勞があっても一生懸命取り組んできているし、異動で市外へ転出しても、塩尻市で学んだ内容を県下各地で生かしていると、そんなふうに感じています。

また、子どもたちにとっても、子どもたちは未来を生きるわけですから、今後、世の中で必要とされている力をいち早くつけていくという意味も含めて、先生方と共に先駆的な取組ができてよかった、幸せだったのではないかと、そんなふうにも思います。もう少し言わせていただくと、どの子も未来を自立して生きるための態度やスキル等の獲得に向けて、チャレンジできたのではないかと思っております。

教育の分野というのは、どうしても文化の伝承的な側面が多いわけですがけれども、今まで市長さんの下で取り組んでいただいた未来を切り拓いていくような取組は、学習者と言いますか、子どもファーストでなくてはならないとは思うのですがけれども、とてもやりがいがある、価値ある取組だったと私は実感しております。今後、評価は絶えず必要かと思っておりますけれども、現時点では、私はそう思っております。

また、そういった点が、全国学力調査のような数値で評価される部分においても、塩尻市が近年、ほぼずっと全国、県平均を上回っている要因ともなっていると考えてもおかしくないかなと、そんなふうには思います。もちろん、それは児童生徒や学校、保護者等の基礎基本の学力獲得に向けた頑張りがあったからこそのものであって、また、市でやっていただいているきめ細かな学習支援等の効果を前提としてのことではありますけれども、そんなことも思います。

また、このような数値評価は学力の一部であるという点も踏まえた上ですけれども、先ほど申し上げた、先駆的な市の取組が子どもの学ぶ意欲を喚起したり、合理的な学習に結びついたりするなどして、学力向上には大きなプラスに働いていると言ってもいいのではないかと、私は思っております。

給食も自校給食でありまして、とてもおいしかったです。そんな点も含めて、本当にありがとうございました。

本日の会議の時間は限られるわけですが、会議の中で市長さんから、先駆的な事業に取り組まれた理由も含めて、今までの市政の中で教育にかけた思いとか、今後の願い等をしっかりと聞きできればありがたいと思っておりますので、できましたら、そのような点も含めて、よろしくお願いいたします。

以上です。

### 小口市長

有害自販機をゼロにしたのは何年だったか。こども教育部のほうだよ。平成20年。そんなに前か。この間、横山元総務部長が退任のときに、係長になったばかりか担当係長の頃で、あれが制定された。たしか2年くらいで。サイトウさんという警察のOBがちょうどタイムリーにしてくれたのでできた、というのを、私も改めてそのときに思い出しまして、あれは、塩尻市と東御市がナンバー1を常に争っていた。1番か2番、現実にそうでありました。

峠の途中に、商売なので有害自販機が置きやすい。今はソーラーもそうですが、1円もためにならなかった山がお金を生むと言え、無関心に考えれば場所を貸してしまいますよね。今までどこに山があったか分からないようであったのが、例えば来月から月13万円借地料が入ると言え、多くの方は貸すと思います。そういうことから、ああいう状態になったことは確かです。

これもいろいろな方からいっぱい意見を頂きましたけれど、最後の決め手は、洗馬のおばあちゃんです。孫が学校に行く道中。今、中古車置き場になっている狭い、2.5段目の河岸段丘みたいなところ。アルピコ臨空工業団地のすぐ西、あそこに今、中国系の方が土地をいろいろな経過で買われて、そこを遊ばせておくのもったいないので有害自販機を置いていた。その場を女の子の孫を自転車に乗せて一緒に通るのが恥ずかしくて、とても嫌だという直訴をいただいた。

それから、何でもいけれど県がやらなかった、田中康夫さんのときは、絶対つくらないと。表現の自由がどうこうという話でやらなかった。では市単独で、とにかくどんな方法でも、どんなに厳しくても、何を言われてもいいから、1台もなくさなければいけない条例にしてくださいという、1つだけをお話ししてつくってもらったのです。おかげで、1年半くらいで、とりあえず見かけ上ゼロになりましたので、あれは1つの成功体験になったと思います。

久々にそういう若い頃の話をもっと若かった横山元部長から聞いて、本当にうれしかったという思い出が極めて鮮鋭に思い出されました。あの時、女性の弁護士で、こども何か部会から2回か3回、表現の自由に抵触するからと手紙が来たのです。顔も見たことない私に手紙を命令調で出すとは何事だと思って、そのくらいちょっと勘違いした弁護士というのは、頭はいいのだけれど、マナーが悪いのですよ。そんな思い出がありましたね。

でも、あれは本当に警察も自分の汚点だと思っていて、ちょうどOBが定年になるので市

の嘱託職員で雇ってほしいという、双方の利害が一致して採用した、そういういいタイミングもあってうまくいった例だと思います。

そういう意味では、さっき教育長や職務代理者がおっしゃったように、今回のG I G Aスクールもエアコンも、例えばプールの順次改修も、やはり早く決めたところには、先物に福ありということで、国も結構多くの補助金をくれるのですね。場合によっては、それがほとんど無駄であったこともあると思います。総務省なんかは功を焦るので、どこかが具体的なことをやろうとすると、すぐ補助金を向こうから持ってきてくれるのだけれど。では、それがどこまで、直接自治体のためになっていたかとなれば、首をかしげるようなものもあります、正直。

だけど、先に手を挙げて、少しでも前向きに動いていったら、国も税金をばらまいている以上、自分も自己満足、成功体験、あるいは省庁としても成功体験を得たいので、地域にしてくれるので。ぜひその辺は、今後も市の教育の中の一部で、あまりよくないけれど、実利があればいいという手法として使っていただいて、どんどん前に進んでいってもらえればと思います。

それとまた最近、採用試験で、えんぱ一くで高校のときに勉強した、あるいは浪人時代に1年勉強した、家にいるとさぼっちゃうし、エアコンがないので、えんぱ一くでと。受験勉強は予備校に行かずに自宅でしましたと。むしろえんぱ一くでしましたと。男の子でしたが、そんな子が毎年2人ぐらいいは。たとえ半分お世辞でも、そう言ってくれる子が増えてきた、現れてきたことがえんぱ一くの1つの成功例だと思って、うれしく聞いていました。

その図書館も、あそこの場所でもいいか悪いかの論争がありました。2回目の私の選挙の中で、相手は青柳充茂さんと1対1でやりました。そのときの選挙は正直、つらかったですね。正直言うと、図書館はとても欲しい。ここの上にあったのは、あれは図書館とは言わない。欲しいけれど、街の中ではいけないと。静かな森の中に、全部1階の図書館で、駐車場が500台あって、森の中になければいけないと。いまは亡き矢ヶ崎朝子さんを中心とする、強烈的な図書館信念を曲げられなかった方々との最後の戦いになりました。

体育館より図書館が子どもたちに大事なのだと、「塩尻に図書館をつくろう会」というのがあったのですね。その方々が8割、9割反対に回りました。充茂さんのパンフレットをまちに配り歩いたとか。知っている人もいるかもしれないが、信濃毎日新聞の1面に「今の市長が進めている図書館は図書館ではない」と。あれは、1面広告に30万円以上かかります。信毎の1面ですから、もっとかかったかもしれない。みんなでお金を出し合って広告を出したのでしょうね。

そんなことがあって、正直、投票率高かったんだよね。議論があった。ある意味では今振り返れば、一番塩尻の民主主義が進化した、投票率が上がったときでもあったと考える。今、下がりっぱなしですけどもね、今考えれば。この中には選挙に出たことのある人はいないね。個人は、選挙で選ばれてしまうので、昨日まで進めてきた人づくりの場所たる図書館が、選挙に負けたら、まるっきりほぼゼロになってしまう。5年、10年後にまたできるかもしれませんが、そういうことでつらかったですけども。

それ以上に、1回で市長を首になったら先祖に格好悪いから、どうやってお墓へ行こうかなと。面白おかしくも、そういう時期でしたけれどもね。結果的には、一番投票数も多かったし、投票率も高かったし、民意も参加型民主主義にちょっと近づいた時代だったなど。今



はあまり。争点がないからかもしれないけれども、下がってしまっていることは寂しいです。そんなこともありました。

そのときに最終的にというか、場所もほぼ決まっていたのですけれども、その後押しをしてくれたのは、埼玉県の小川町、3万人くらいの市に近い規模の町で、その図書館長なのか副館長なのか、女性の方です。55歳、私よりちょっと上ぐらいでしたか。その方が「公共の図書館は駅から500メートル以内になければ全く価値がない」という意味のことをおっしゃっていた。

当然私は、図書館に限らず、あらゆる公共施設はそうだと思います。できれば交通弱者も行ける、具体的には自転車で中学生が行ける。そういう場所でない、公共施設は多額の税金、当然賛否はどんなものでもありますので、造るべきではないという。改めての信念を覚えてもらったときでした。ある程度の反対はあっても、やっぱり公共というものは、この場所もそうですし、行政区の中の一部であるべきという感じですね。

来週末、岐阜の市長に挨拶に行ってきます。図書館長もいるね。正式に司書の交換をしてきていいか。来年4月からです。

**上條市民交流施設センター長（図書館長）** 先方の館長ともそれに向けた話をしております。

**小口市長** 庁内公募でいいと思う。一気に2人だとだめかもしれないので、1人からだんだん広がっていけばいい。図書館同盟は、大和市の大木市長が発起人でつくってくれた同盟ですけども、あそこは外部に委託しているので、簡単に職員の交換はできないということです。岐阜市とのダイレクトの人事教育制度を来年4月から始めることとしますので、また間接的にも教育委員会の皆様の御理解をいただいて。

とても新しいきれいな、フラットに近い図書館です。2階建てで図書館の面積は約9,000平方メートル。常世田先生に言わせると、えんぱ一くのほうがあれよりもはるかに機能的だと、数段上だと評価していただいていますけれども。大和市のシリウスは、もう比較にならないぐらい大きな施設です。まだ行ったことはないですか。機会があったらぜひ。羨ましいだけで、あとは言葉が出ない。中ホールクラスのものも中であって、図書館を本当にコアとした大規模人材育成センター。駅の真上ですから、本当に食住近接のベースになっている。あれは放っておいても、部長が新しいことを考えて苦労しなくても、すぐに先進的な形を自分で維持していくのでしょね、ああいう施設は。

それもやはり大和市は、私鉄の駅で橋上駅舎だったのが地下に全部潜ったのですね。多少お金がかかったでしょうけれども、その上が膨大な、まるっきりフリーのスペースとして、ゼロからの設計ができた。文句を言う人はいたのですが、邪魔するものがないということです。

私が最初に行ったときには、まだ立入禁止の黄色いテープが張ってある状態でしたけれども。それから大木市長がそれぞれ3人ぐらいずつ部長を伴って、えんぱ一くに視察に来てくれた。実施設計の段階までに、ほとんどの部長が来てくれたのではないですかね。非常に高く評価してくれた。

面白い市長でして、今でもめでたくもないのに、私の誕生日には電話をくれる。彼の誕生日を調べたら6月で、私より2歳年上かな。私のほうから電話するのは恥ずかしいので、分かっているながら、ずっと電話していませんけれども、それでも向こうからは、私は8月24日なので、もうすぐかかってくるのではないかと。そのくらいえんぱ一くを通じた先輩から、

いい教えを頂いたということです。

一滴も酒を飲まないで「市長をやっている間は飲まない」と言った気がするな。うそだと思いますけれど。もう4期目だから十何年、飲まないわけがない。多分どこかで体を壊したのではないかと勝手に思っている。建前上は「市長は常に24時間緊張した立場にいないといけないから、酒は飲まない」と。本当だとしたらすごい人。とても私にはまねできません。酒をやめるくらいなら先に市長を辞めます。いろいろな人と知り合えたということも、この20年間です。これは楽しい思い出でしたよね。

遡れば、こども教育部の創設も、公約に基づくものとはいえ、当時はまだ違和感のあった頃です。自然博物館だけは、方向づけをあえてしないで次の方に譲りたいと思って、宿題を完結放棄して去りますけれども、よろしくお願いします。

さっきもちょっとお話ししましたがけれども、人生、人に迷惑さえかけなければ、自分の立ち位置はみんな自己中心でいいはずなのです。なので、重厚長大なものを望む方もいて不思議はないと思います。そこは専門職として、税金から給料を頂いている私たちが、つらいけれども決断をしなければいけないという段取りを、これは必修ワークとして持っていかなければ得ないので、ぜひ今後もお願いしたいと思います。お金の問題なので、教育長というよりもむしろ新市長への重い宿題になると思います。

ところで、「本の寺子屋」の命名者は私ではなかったか。鳥取は「本の学校」なので、うちでそういう話が持ち上がったときに「ではその子どもバージョンだから、寺子屋でいいのではないか」と言ったのは、私だと思ったけれど違ったっけ。

**上條図書館長** ものの本には、当時図書館にいた職員の発案だと書いてあります。

**小口市長** そうか。有実化したのは私だということにしておいて。何かの会話の中から発祥したことなので、もしかしたらその場で誰かがつぶやいたのを私が拾ったのかもしれない。自信を持って言えなくなってしまった。

もともと教育県と言われたのは、今でも自治体合併が進んでいない70の自治体があるということと因果関係が深いと思いますけれども。長野県は寺子屋が一番多かった。それは山がいっぱいあって、統合ができない、保育園の統合みたいなことが現実にできなかった。今みたいに自家用車はないし、馬車で送り迎えをするわけにもいかないだろうし。

だから、それぞれの地域に小さいけれども、未来をつくるために子どもがある程度賢くならないといけないということから、各地区の有力者、それは村長だったかもしれませんし、豪族だったかもしれない。寺子屋は大名からではないよね。昔から、藩校というのがありましたよね。あれに遡るのか、誰か勉強して分かったら教えてください。

寺子屋という言い方が、いつの時代になってからなのか。江戸かな。それによって長野県教育は学力を高くされてきたというのを、私が東京に行った頃、学生仲間に聞いた気がします。そういう知識があったので、寺子屋は非常にいい響きではないかと思って決定した記憶があります。それを始めて協力して、先ほどの小泉今日子さんの講演会のような形も1つありようとして、続いていることこそ、ある意味では図書館の在り方。選挙のときにはつらかったですけれども、その辺の、本を愛する民主主義が多少なりとも熟してきて、このことにつながってきているのかなと思います。今振り返ればそう思います。

それと最近、こういう会議で2015年だったか、桔梗小学校と広陵中学校の大規模問題で、もっともめると思ったのですよ。皆さん、あっけないくらいスムーズに、何の議論もなくて

とは失礼な言い方か、現実的なフリー通学区という表現でいいのですか、今のところは。結局、4月からは何人となっているのですか。

**太田子ども教育部長** 1人です。

**小口市長** 1人ですか。

**太田子ども教育部長** 今年度からです。もう少しすると、少しずつ増えてくるのではないかと考えていますけれども。

**小口市長** あれは新教育長になったときに、直接お話ししたと思いますが、極めて重い課題でした。だけどやはり、教育と行政の一体化の中で、私がつらくても判断して、そんな方向にしなくてはいけないテーマですから、タイミングを切って上申してくださいとお話ししたと思います。そんなタイミングもなくて、知らない間になぜできてしまったのか、いまだに分からないけれど。そういうものかもしれないね。

塚越歯医者とは私は高校が同じ同年代でして、彼が、その前に桔梗小を分けたとき不本意ながら子どもを向こうにやった当人です。今でも時々治療に通っていて、そのときのことを思い出して、こんなものは民意を問うていたら絶対まともにならないから、お前がやるしかないのだよと、そう言われたのです。確かにそうだよ。今の日本の中には賛否両論あるに決まっている。そのときにつらい思いをして、泣く泣く国道を渡って桔梗小に、親としても子としても、少なくとも19号を渡らなければいけないのはリスクだよ。それを経験してディベートを進めてきた立場の者の言葉は、結構重たかったですね。彼は治療しながら適当なことを言っていただけの話なのだけれど。

私の立場からは、そうだよ。行く行くいわゆるよりよい環境がそれぞれの子どもたちの未来を少しでも育む形になるのであれば。今、地区子ども会がやりにくくなるとか、小学校中学校、保育園まで含めて、その間の友達がなくなってしまうことが嫌だみたいなことが、それはやはり、その瞬間は当人にとっては嫌なことであり行政の責任にしたいのかもしれませんが、決してそうではないということを、私の立場で、恨まれようとも判断しなければいけないと思っていました。

太田部長が寝技でこぎ着けたのがよく分かりませんが、ソフトランディングということが一つの前提にあるから、自然に納得されたのかなと思いますけれど。今日からここからこっちは全部あっちへ行けと言ったら、お上が決めたことには賛成でも反対をしたいのが、今の1割くらいの民意です。

**太田子ども教育部長** 小林委員、何かありますか。

**小林委員** 個人的な意見も入って恐縮ですが、この場をお借りして市長さんにお礼を申し上げたいとずっと感じておりました。息子が今30歳になったのですが、平成26年に全国障がい者技能大会の製品パッキング部門に参加したときにメダルを頂いて、銀メダルだったので、そのときに市長さんのところへ表敬訪問させていただきました。段ボールを持って行って一緒に箱を折ったのを覚えていらっしゃるかどうか分かりませんが。

**小口市長** 覚えていますよ。

**小林委員** あのとときに商工会の方にこういう青年がいるよと紹介していただいたようで、それで今の会社に一般就労ができました。法律も改正されて障がい者を56人に1人は雇わなければいけないみたいになったときだったので、ちょうど今の会社が引き受けていただいて、おかげさまでもう8年になるのです。本人も3年間就労支援センターで頑張ってきた

のですが、一旦は諏訪のレンズ会社に決まったのですが、ちょっと合わなくて半年で辞めて、また就労センターに戻っていた時でした。運良く県大会に出させてもらって、それで全国大会に行って市長さんのところへ行かせていただくことができました。本人の努力もあると思うのですが、そういうお声がけをしていただいたことで就職という道が開けたということがありました。会社では多少つらいこともあります、でも本人が頑張ってお勤めています。市長さんに本当に感謝しています。

今年から家庭支援課のほうでも 18 歳を過ぎた人へのフォローをしていくという方針がはっきり見えてきました。やはり高校までは関わってくれる人も多し、うちの息子も高校で大分先生方に支えていただいて、卒業してからは支援センターで支えていただきました。問題はその後が、やはり会社と今度は本人の 1 対 1 になります。親が入るべきところではないみたいなのもあって、ジョブコーチさんに入ってもらうのですが、ジョブコーチさんは今長野市から来ていただくような感じなのです。そういう仕組みみたいですが、やはりもっと身近に必要としている方がいると思います。18 歳以上のフォローというのを本当に幅広く、就労できていない人から、就労したけれども、まだ必要だということがハンディのある人たちにはあると思います。そういうところが充実していくといいなのを、お礼と希望と加えてお伝えしたかったのです。

**小口市長** 今実質 18 歳までは義務教育ですから、こども教育部をマイナス 2 歳から 18 歳と私が定義したのはそういう意味なのです。それとその後の社会人とのほざまというのは今でも課題になっていますね。どうしても本人も自立していかなければいけないという個人のミッション、それを社会がどんな形で継続フォローするのがいいのか、できるのかというところの両方ですね。

この間、春の小川がやっている B 型支援所に、エプソンの方々や OB がみんなやってくれているので、そういう方々の視察に行ってきたのですが、全く同じことなのですよ。本人たちには、多少なりとも成果としての報酬は、本人のやりがい、生きがいになる。だけど、作業所としてはそんなに高い賃金を出してまで仕事をくれるところはないと、そういう話を嘆いていました。

その辺を県なり地域なりのもうちょっと大きなくくりの中でトータル的な受注をして、その中でそれぞれの持ち場持ち場に合った形の作業に振り分ける。だから簡単に言えば、今の KADO のいわゆる障がい者版みたいなものですかね。そんなものが松本平に 1 個できれば大分環境も違ってくるので、ということを次期市長の 1 つのこれも大きな宿題として送りますという話をしてきたのですが、彼の場合には特に職住接近の中で、かつ自分の技能五輪に近い形の技を年々タイムを縮めてきた、その延長上に仕事があるので非常に幸せだった例だと思います。

**小林委員** 本当にありがとうございました。

**徳武委員** 今こちらの資料を両方見ていると、20 年という長い時間なのですが、私もこの施策に大変お世話になっていまして、先ほど市長がおっしゃったとおりマイナス 2 歳から 18 歳までというこども教育部、本当に私もマイナス 2 歳からお世話になったおかげで子どもが生まれました。現在小学校に通って、えんぱ一くのできた年に生まれたのですが、えんぱ一くには本当にお世話になって、子育て支援センターですとかこども広場もそうです。本当に何度通ったか分からないというぐらい行っているのですが、特に支援センターとかこども広

場というのは市外からのお母さんたちもとても利用が多くて、塩尻は本当に広い遊び場があっていいねと何度も言われましたし、市外のお友達がよく子どもを連れて遊びに来たのを今でもよく覚えています。それがずっと続いていくというのが本当に素晴らしいなと思っております。

子育てしたくなるまち日本一ということですが、私の息子は現在小学6年生、これから中学生になりますけど、学校でもGIGAスクール、タブレットですとか本当によく使っています。日頃の生活に子どもは、なくてはならないまでは行かないですけど、本当によく使っていますし、先生方もしっかり見てくださっています。特にオンライン授業のときなどは、親から見れば本当に上手に使いこなしているなと感心します。先生が、教室にいないオンラインの子どもたちにも、きちんと目をかけてくれたりとか、分散登校のときには、学校にいる生徒、自宅待機の生徒と上手にコミュニケーションをとっているのが、私はとても印象的でした。

これからそういうときがまた来るかもしれないですけど、こういうことを子どものうちにやっておけば、また将来絶対役に立つなということをとっても感じていますし、これからも先進的なそういう取組というのは、ぜひ続けていっていただけたらなととても思いました。ありがとうございます。

**小口市長** 私がちょっと心配したのは、その世界だけでこもってしまって、直接フェース・トゥ・フェースのいわゆる子どもの仲間作りが阻害されてしまうのではないかという心配が、ただ1つあったのですけれども。

**徳武委員** 授業が終わってからでもつなげるというのは私は知らなかったのですが、子ども同士でお話ししたりとか、先生がその場になかったのですが、例えば休み時間でしょうね、そうやって学校にいる子と自宅でオンラインでつないでいる子がみんな会話している姿とかもありましたので、すごいなと思って見ていました。

**小口市長** 上手に使っていただくことに先生が機器を用いてもらうことは今後も必要だと思いますので、確かにさっき確井職務代理が言われたように、簡単に言ってもICTと英語とあとは環境がいるそうです。この3つ、正直言って余分な仕事ですよ。ついこの間までは、余分なことをやらないのが一番いい公務員ということで、語弊のある表現ですが、そういう方も何人かいたわけですよ。

先生だって公務員だから、当然余分なことをやっていたら自分が家に帰る時間が遅くなるし、クラスから東大生が1人出たから給料が上がるということも多分ないでしょうね。それを考えると楽をしたいはずなのだけれど、ちょっと待つだけでも、それだけ余分なのですよね。そういうことがフォローしていただけないと、私が言った教育再生というのは言葉倒れに終わってしまうと思っていました。

だから迷うときは子ども中心で、それは異論があっても私が決めるしかないということだけは、20年間曲げずに来たつもりです。そういう意味では、産婦人科がないことだけはどうしても常に頭のこの辺にじくじたる思いがあるのですが、それを想起しながら卒業としたいと思います。決してうそは言っていないと思っています。

上手に使えばいいが、スマホをさわるのもそうですよね。電車の中でそればかり見ていて、隣の人の顔も見ない。私みたいな年寄りになると、たまに東京の出張で行くと、ずっと見ていますよね、顔をこうやって。本当に不安になるのですよね。人を思いやる、あるいは広い見

識、この中からだけしか吸収できなければ、それはセグメント的なことしか必然的に拾わなくなりますよね。外野を拾う必要がないのですよね。

今スマホをいじっている女子高生が多いですね。本当に10年後、20年後が心配になるのですけれど。でももうスマホ時代になって15年くらいになりますかね。そのころ中高生だった子がもう既に30歳を越えているのでは。大人になっている。余分な心配をしなくても使いこなして普通の大人になっていくのかなとも最近は思っていますけれども。

そこは2人の校長経験者が教育委員会にいたことが最大のくさびだと思っていますので、ぜひ経験則なども、変な意味での懐古主義ではなくて、今なりのことになってしまうわけで、それは当たり前のことですよね。流れにさお差しても無理なことで、そうすると民間出身の、あまり先生の立場を気にすることのない委員の皆様でよりバランスが取れているのかなと思いますので、ぜひ・・・お互いに是正し合いながらよりよい18歳、それではいけない、もっと上まで担保しなければいけないのでしょうかけれども、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

**太田こども教育部長** ありがとうございます。大分お時間を過ぎて、まだなかなか語り尽くせないところはあるかもしれませんが、ここで一旦終了させていただきたいと思ひます。

## 5 その他

**太田こども教育部長** 次第に沿ってその他ですけれども、事務局から何かございませんか。

## 6 閉会

**太田こども教育部長** それでは、本日の会議事項は全て終了いたしましたので、以上をもちまして第1回の総合教育会議を閉会したいと思います。ありがとうございます。

○ 午後4時20分に閉会する

以上

令和4年9月29日

署 名

市 長

---

教 育 長

---

同職務代理者

---

委 員

---

委 員

---

委 員

---

記 録 職 員 教 育 総 務 課  
教 育 企 画 係 長

---